

勿凝学問 345

成長戦略という名の産業政策を僕があまり好きでない理由

2011年1月8日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

10年近く前になるかな、まあ、将来、社会保障というのは経済成長との絡み合いの中での議論が中心になるだろうと思って、僕が(人里離れて?)成長論ばかりをやっていた頃¹—とても印象的だったことがある。それは次のような話である。

クルーグマンの貿易論は、経路依存と収穫逓増を前提とする理論であり、これはリカード流の比較生産費説を否定する理論である。そこで、『ゼロサム社会』などで有名なレスター・カール・サローなどが、クルーグマンの貿易論に依拠した形で、成長産業を政策的に創出することができるとする「選択的通商政策」を唱えたりするのだけど、当時、まだかなり若かったクルーグマンは、そうした選択的通商政策を、昨年末に国家経済会議(NEC)委員長を辞任したローレンス・サマーズなどと一緒に、「困ったおじさんたちだなあ」という感じで否定するのである。

この話のおもしろさは、サローたちは、クルーグマンの理論に基づいて議論しているのに、理論の考案者であるクルーグマンが、「困ったおじさんたちだなあ」という感じで批判しているところにある(ちなみに、クルーグマンは1953年生まれで、翌1954年にサマーズは誕生。そして、サローは、クルーグマンよりは15歳年上の1938年生まれ)。

このあたりは、2003年に書いた論文のなかに次のように書いている。

¹ 当時、僕と僕の指導教授の藤澤益夫先生の間にはいた城戸喜子先生は、僕が成長論や「権力とはなんぞや?」をテーマとした権力論ばかりをやっているのをみて、心配のあまり、藤澤先生に、「権丈さん、社会保障の方、大丈夫でしょうか?」と。藤澤先生は、「権丈を教育しようと思ったらだめです。こっちに向けようと思って何か言ったら、あいつはあっち向いてしまいますから」と答えてくれたらしい(笑)。

昨日、ゼミの卒業生で、研究職に就いている数人と一緒にいて、「焦ることはない。若いときには潜伏しているくらいでちょうど良い。社会科学の世界ってのは、若いときには知らないことばかりなんだから、若いときはだいたい間違えてしまう。いろんなことが見え始めてから動き出せばいい。いや、そっちの方がベターだな」という話をしたので、上記、書いておくよ [[I巻第2版への序文参照](#)]。

ちなみに、藤澤先生は、僕や嫁に、「俺と同じことをするな。スモール藤澤になるだけだ」としか言ってなかったんだから、やっぱり今の僕らは、藤澤先生の作品なんだよな(笑)。

権丈(2009〔初版(2004)〕)「積極的社会保障政策と日本の歴史の転換」『年金改革と積極的社会保障政策——再分配政策の政治経済学Ⅱ 第2版』234頁〔初出は2003年8月の『三田商学研究』〕

さらにここでひとつ抱かれる、青木・吉川モデルに関する疑問を記しておこう。このモデルは、日本に富をもたらす基幹産業を養成するという戦略的通商政策につながる可能性を持っている。そしてこの戦略的通商政策というものは、一見すれば、QUERTY 経済学にもとづいて新しく構築された国際経済学との整合性を持つかのようにみえる。けれども、この新しい国際経済学を開発したクルーグマンたちや、他にサマーズなども、成長する産業を事前を選択する政治的・技術的難しさ、および仮に選択した産業が成長したとしても国富への貢献がほんのわずかにしかならないことを指摘している。それゆえに彼らは、戦略的通商政策は利益集団に支えられた旧来型の保護貿易政策に利用されるだけだとして、この政策に強く反対する。クルーグマンやサマーズのこうした言い分は、もっともなことではあろう。

この文章は、次の13頁にもある。

勿凝学問 172 [積極的社会保障政策という景気対策——社会保障重視派こそが一番の成長重視派に決まってるだろう](#)

上記の文章に続いて、次の文章を、2003年時に書いているね。

しかしながら、青木・吉川モデルと社会保障政策との関係については、たしかなことが言えるのではなからうか。なぜならば、社会保障分野にニーズがあることは明らかなのであり、そのニーズを公主導で顕在化する政策を展開すれば社会サービス部門への需要は確実に成長し、そこに新たな雇用が生まれるのもまた確実である。そしてさらには、これは極めて大切なことなのであるが、「国が安いデイ・ケアを提供すれば、家族と市場はどちらも変化する。主婦が減り、労働力参加が高まり、共働き世帯のサービスの購買力が高まることで、新規需要の乗数効果が引き起こされる」(Esping-Andersen)。そのとき、福祉サービスの生産を家計生産に依存した日本型福祉国家であったがゆえに生まれてきた人口問題の解決を、同時に考えるのである。

すなわち・・・

あの頃には、僕の考え方は、もうできあがっているみたいだな。

さて本日、なぜ、この文章を書く気になったのかというと、ニュースでサマーズのNEC委員長後任にジーン・スパーリング財務省顧問が就くことが報道されていたことと、昨日、ホームページに書いた次の文章が結びついたため——それともうひとつ、ちょうど昨日、友だちから、みんな僕のことを聞きたいんだけどという連絡がきたからかな(笑)。そこ行くの、僕、やだよ(笑)。

- この[勿凝学問 322](#) もだね。

それに彼らの言う成長戦略ってのは、僕には、新世紀の利権政治にみえて仕方がないんだけどね。社会的に価値をおくサービスの潜在需要を顕在化する——僕はここまでをワイズスペンディングと考えている——ことにより需要を創って、各種供給側でのイノベーションは民間の力に期待をする。政府は、それ以上のことはあんまりやらない方がいいと思うよ。新しい財を生みだすイノベーションを起こし得る産業を特定するセンスなんて、ほとんどの人が持ち合わせていなくて、そして当然、政治家や官僚がそんなセンスを備えているなんて考えられないんだから。

この文章は、ホームページへの次の書き込みの文脈の中で登場します。

今日1月6日は、入間の人事院公務員研修所で、課長補佐級リーダーシップ研修なるものに出かける。今年初めて企画されたらしい。毎年春に1年生が参加する初任者研修と比べれば——思わず、出席者の様子を見て、「あれから何十年・・・という感じですかね」ときみまるのようなことを口走ってしまった。。。パワーポイントをアップしておきますね。

- [平成 22 年度行政研修リーダーシップ研修](#)

昨年の [11 月 29 日](#) の書き込みをご参照あれ。

この [【正論】](#) を論じられた加地先生を、人事院は、もちろん今後も講師としてお願いするとのこと。となれば・・・か？

講義の後、休み時間に、内閣府の人から「年金の世代間格差についてはどう思いますか？」との質問、経産省の人から「具体的にどこに再分配をするかという意味での再分配の方向性はどのように決めればいいですか？」との質問がある。

前者の方には、次などを。

- 勿凝学問 264 [公的年金には世代間格差はあるけど、それがどうした？——「負け太り」という言葉も覚えてもらおうか](#)
- 勿凝学問 266 [二重の負担の二重の意味——世間では未だに年金の世代間格差とかの話をしているようなので](#)
- [2009 年 6 月 24 の HP への書き込み](#)
- 「[公的年金における世代間格差をどう考えるか——世代間格差論議の学説史的考察](#)」 [LRL(Labor Research Library), No. 11, pp. 3-6]

後者の方には、次はどうでしょうかね。次の文章の執筆者からの年賀状に、「去年はイタコ役を務めさせていただき、ありがとうございました」とあったけど（笑）・・・。

- 「[医療・介護・保育・教育の必要消費で需要不足を緩和する](#)」『週刊エコノミスト』
2010年8月10日号
- 上の文章で、重要な言葉は、

4分野の消費が拡大すれば、支出は所得となり、広く全国に購買力が分配される。この購買力、つまり需要の奪い合いの場の創出が、今、民間が創意工夫を発揮するためには不可欠だ。

- この文章は、[今日使ったパワーポイント](#)のスライド81にあるケインズの次の言葉に対応するものです。

消費性向と投資誘因とを相互調整するという仕事にもなう政府機能の拡大・・・現在の経済体制が全面的に崩壊するのを回避するために実際にとりうる手段はそれしかないからであり、同時にそれは個人の創意工夫がうまく機能するための条件でもあるからだ。

- このあたりの考え方は、[勿凝学問 313](#)の次の言葉にも現れてます

ところで・・・先日、医療関係者を前にした講演の後の懇親会でのこと。
A 医師「先生は、医療のことをよく理解してくださっていて、僕たちとしては本当にうれしいです」
B 医師「それは違うね。権丈先生は、日本の経済を守るために、医療とか介護を利用しようとしているだけだぞ。潜在需要が大きくて、再分配効果が高いのがあれば、先生は、そっちを言うでしょう？」
僕「あはっ。バレてますか”(^;”」

- この[勿凝学問 322](#)もだね。

それに彼らの言う成長戦略ってのは、僕には、新世紀の利権政治にみえて仕方がないんだけどね。社会的に価値をおくサービスの潜在需要を顕在化する——僕はここまでをワイズスペンディングと考えている——ことにより需要を創って、各種供給側でのイノベーションは民間の力に期待をする。政府は、それ以上のことはあんまりやらない方がいいと思うよ。新しい財を生み出すイノベーションを起

こし得る産業を特定するセンスなんて、ほとんどの人が持ち合わせていなくて、そして当然、政治家や官僚がそんなセンスを備えているなんて考えられないんだから。

- 次の文章及び文章末の参考資料などもどうぞ。
勿凝学問 332 [ゲゲゲの女房と経済成長——消費の飽和と消費性向の国民所得への累積効果](#)

そして、今日の僕の話のベースになっている、僕の経済学観は、次が参考になります。

- 「[政策技術学としての経済学を求めて——分配、再分配問題を扱う研究者が見てきた世界](#)」『at プラス』 2009年8月号

それと、今日の雑談として、次の話もしたような気がします。

- 勿凝学問 170 [情報と世論と民主主義の脆弱性——公と私の社会的アンバランス考](#)

いやはや、今日はお疲れ様でした・・・といっても、まだ、合宿中だろうけどね。

おまけ——イタコは、[ここ](#)にもいる模様。。

とにもかくにも、経済学の「経済成長論」というものには、あまり期待しないことだね。『再分配政策の政治経済学Ⅱ』で成長論のサーベイをやっているから眺めておいてください。

イノベーションについては次をご参照あれ。

- 勿凝学問 61 [イノベーションを促す政策とは——今日の論調とオリジナルなシュンペーター理論](#)

成長とは何かについては、次の文章と、文章末にある参考資料もご参照を。

- 勿凝学問 332 [ゲゲゲの女房と経済成長——消費の飽和と消費性向の国民所得への累積効果](#)

それと、次の文章も、「成長戦略という名の産業政策を僕が好きでない」雰囲気かにじみ出てるかな（笑）。

- 「[不磨の大典”総定員法”の弊](#)」『週刊東洋経済』 2010年10月16日号

入間の公務員研修所関連の文章は次だな。

勿凝学問 308 [まあ、普通に考えれば、官僚の重要性は高まっている——今年为国家公務員初任者研修にて](#)

勿凝学問 243 [ミネルヴァの梟と政策論——『官僚たちの夏』の「確実な政策なんかどこにあります…」](#)